

障連協にゅーす

第 14 号

発行日 2009年3月10日
 編集 NPO法人
 旭川障害者連絡協議会
 発行者 峰木光春
 住所 旭川市宮前通東4155番地30
 旭川市障害者福祉センター
 「おびった」3F
 電話 0166-31-2226

障連協にゅーす 14号目次

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 『障害者週間』記念事業 | 5 サークル紹介 車椅子テニスサークル「ACT」 |
| 2 写真集 | 5 陳情書の報告(障連協) |
| 2 館内に私設郵便箱が設置されました | 6 「ちょっと井戸端」.....高津 修 |
| 3 「きょうされんカレンダー」川村俊介さん | 6 フライングディスク・風船バレー教室 |
| 3 加盟団体からのお知らせ | 6 新年交礼会 |
| 4 サークル紹介 「あかしあ水泳サークル」 | 6 前号の訂正 |

平成20年度旭川市『障害者週間』記念事業

平成20年度の「旭川障害者週間記念事業」が12月7日(日)に、障害者福祉センター「おびった」体育館において開催されました。オープニングは明成高校福祉エリアの生徒のみなさんによる手話合唱「GIFT(ギフト)」の歌声で、高校生らしい新鮮な手話のハーモニーが注目されました。次に高津修実行委員長の開会挨拶、旭川市社会福祉協議会の地域福祉課長の石島裕士氏より来賓挨拶をいただきました。

その後今回の記念事業における基調講演は北海道療育園・園長平元東氏が行いました。テーマは『障害者福祉の文化化をめざして』～重症心身障害児(者)療育の実践から～。「福祉の文化化」は社会福祉学者の一番ヶ瀬康子氏の福祉論の一つで、平元氏は日頃たずさわっている療育・医療の立場から「福祉の文化化」とは何かについて、プロジェクターを使用し、約1時間にわたりわかりやすく話されました。「障害児療育から見た障害者福祉の動向(障害概念の変化とICF、障害者自立支援法の課題など)」、「重症心身障害児(者)と障害児療育」、「北海道療育園の実践—と文化化の試み」、「障害者福祉の文化化がめざすもの(社会の価値観を変えることができるかなど)」等、講演項目は参加者の興味をおおいに引く内容でした。

昼食をはさんで午後の部は山崎理恵さんのピアノ演奏で始まりました。演奏曲目はバッハ(主よ、人の望みのよろこびよ)、モーツァルト(トルコ行進曲)など5曲。難病の発症後、断念していた演奏活動は、ピアノに取り付ける補助具の開発により、2008年7月から「車椅子のピアニスト」としてプロ活動を再開することができました。会場に響き渡った華麗なピアノの音が、山崎さんの思いを裏付けていた



平元 東先生の基調講演



林家とんでん平さんの講演と手話落語



山崎理恵さんのピアノ演奏

ようです。

これもはじめての手話落語は、札幌市から駆けつけてくれた林家とんでん平さん。演題は『笑って福祉を考える』。林家三平さんのお弟子さんだった方で、仕草が師匠に似ており、汗だくの熱演。身についた手話落語で、笑っているうちに時間が経ちました。

最後は旭川混声合唱団による合唱。曲目はロシア民謡から「収穫の歌」など3曲、日本の歌からは「川の流れのように」など4曲が演奏されました。すばらしい独唱のパートもあり、どの歌声にも参加者から大きな拍手がおくられていました。おしまいはアンコール曲「あの鐘を鳴らすのはあなた」で幕を閉じました。

当日は、雪降り模様でしたが、参加者は300名を超える盛況で、会場内に設けられていた福祉施設・共同作業所の授産販売が賑わっていました。なお今年度の記念事業にも市内の各学校から、多くの学生が裏方のボランティアとして関わり、本事業の成功のために働いてくれました。

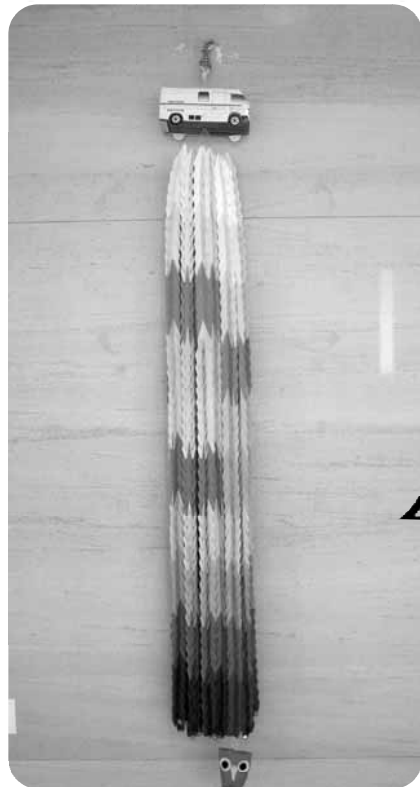
『障害者週間』 写真集



旭川混声合唱団



明成高校福祉エリアの手話合唱

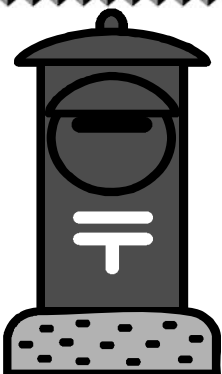


折り鶴が寄贈されました。作られたのは「おびった」をよく利用されている成田知嘉子さん。制作に4日間かかったというとてもきれいな作品です。



福祉施設・共同作業所の授産販売

旭川市『障害者週間』記念事業
と き：平成20年12月7日(日) 10:00～16:00
ところ：旭川市障害者福祉センター「おびった」体育館
(旭川市宮前通東4155番地30)
主 催：旭川市・平成20年度旭川市「障害者週間」記念事業実行委員会
後 援：(福)旭川市社会福祉協議会



館内に私設郵便箱が設置されました

おびった内に私設郵便箱が設置されました。郵便の集荷は1日1回(午後)です。1階ロビーの受付カウンターの横に設置されています。どうぞご利用下さい。



川村俊介さんの作品がきょうされんのカレンダーに採用!



川村俊介さんとお母さん

「きょうされん」では、毎年カレンダー作品コンクールを行っていて入賞作品を卓上版と壁掛け版のカレンダーに採用しています。2009年のコンクールに「あかしあ労働福祉センター」に通っている川村俊介さんの作品が入賞し、卓上版の8月に採用されました。おめでとう!

「きょうされん」とは、障害者が働く共同作業所の全国組織の略称です。

採用された川村さんの作品「芋ほり」

加盟団体からのお知らせ

旭川市に高等養護学校の設置を!

旭川市に高等養護学校をつくる会

旭川市や近隣市町村に在住する知的等の障害を持った中学生は、進学のためには美深、雨竜、小平など遠方の高等養護学校に就学していますが、全寮制など大きな環境変化によって、本人と保護者の精神的、経済的負担は小さなものではありません。

全道的に高等養護学校への進学を希望する生徒が増加し、各学校で定員拡大の措置がとられ、21年度は、小樽市に福祉・流通サービスの新学科を設置した高等養護学校が新設されます。旭川市、旭川市教育委員会では、昨年7月に北海道知事、教育長に対して旭川市への設置を要望しておりますが、関係する知的障害等の団体(旭川手をつなぐ育成会・旭川自閉症児者親の会・ドンマイの会・旭川ピリモの会)が「旭川市に高等養護学校をつくる会」を組織して強力に運動を展開していくこととしました。

これから、さらに署名活動や関係機関への要請活動をすすめて参りますので、各団体の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



精神障害者対象のバス運賃助成申請 旭川市が利用をPR

旭川精神障害者家族連合会

旭川市が平成20年度から開始した精神障害者に対するバス運賃助成は、年間に3千円の回数券を支給する内容で、精神障害者の通院など外出時の負担を減らし、社会参加を促す目的で導入したものです。

これまで、バス会社の運賃割引対象は身体・知的障害者のみで精神障害者は除外されてきました。「精神障害者保健福祉手帳」保有者は、平成20年3月末で1,460人(旭川市内)。この内バス運賃助成の申請をした人は、平成21年1月31日現在784人、申請率は53.7%で市の広報誌などで申請を広く呼び掛けています。

旭川市保健所健康推進課では、対象者が2年に1度の同手帳更新に訪れた際、助成について説明をしています。個別には通知していませんが、「代理申請もできるので、この制度の利用を」とPRしています。

問い合わせ先：旭川市保健所健康推進課 ☎ 0166-25-6364



おびったを利用する サークル紹介

あかしあ水泳サークル

「あかしあ水泳サークル」について代表の藤中洋子さんにお話を伺いました。

あかしあ水泳サークルは、平成8年10月に障害のある8名の方とコーチ1名で発足しました。きっかけは平成8年8月に、近文市民ふれあいセンターのプールが出来たことでした。それまで旭川市には、障害のある人が利用できる温水プールがなかったため、水泳をやりたいと思ってもなかなかその機会がありませんでした。藤中さんもその中の1人で、それまではスポーツとは全く縁のない生活をしていましたが、水泳なら障害の枠を超えて自分にもできるのではないかと思い、早速仲間の人たちに呼びかけてサークルを作ったそうです。

練習はおびったのプールで、毎週火曜日の5時から6時までと、金曜日の7時から8時までの2回行っています。「みんなで助け合って、楽しく泳ぐ」ことをサークルのモットーにしていて、ひとりひとりに合わせたやり方をコーチの人と相談しながら練習しています。障害によっては、身体に触れられることを

嫌がる方もいるので、その人の状態や障害に合わせて決して無理なことはしないような練習メニューにしているそうです。中には、歩行を中心に行っている方もいますが、だんだん慣れてくると自然と泳ぎたくなってくるようです。上達することだけが目的ではないので、「身体をほぐす」事を第一に考えてみんなで楽しく泳いでいるとのことでした。

今のところコーチの人数の関係などもあって、これ以上会員を増やすことは無理とのことですが、プールで介助してくれる人や水泳コーチの人がもう少し参加してほしいとのことでした。



あかしあ水泳サークルのみなさん

車椅子テニスサークル「ACT」



代表の山崎理恵さん

車イステニスのサークル「ACT(アクト)」さんの紹介です。代表の山崎理恵さんとコーチの塚田鉄平さんにお話を伺いました。

「ACT」とは旭川チャレンジテニス(Asahikawa Challenge Tennis)の頭文字をとってACTとしたそうです。コーチで理学療法士でもある塚田さんが働いている病院の患者さんで、脊髄損傷により車イス生活となった方がテニスを続けたいとの思いに、高校時代にテニスをやっていた塚田さんも賛同して2005年にこのサークルを作られました。ちなみにこの患者さんは上野実穂さんという方で(現在神奈川県在住)、次のパラリンピックを目指してがんばっているそうです。

メンバーは、現在10人で健常者の方も多く参加しているそうです。毎週木曜日の夜に「おびった」の体育館で練習をしています。

この日は練習開始から拝見させていただきました。はじめに柔軟体操、ランニングそしてフォアハンドとバックハンドの練習、ダブルスの練習というメニューでした。車イステニス是一般のテニスとほぼ同じルールで行います。唯一違うのが2バンドで返球してもかまわないところです。夏は屋外でも競技をするそうですが、土や芝生の上の車イス操作が大変とコーチの塚田さんはおっしゃっていました。

会では随時メンバーを募集しています。健常者の方でも参加できますし、車イスはレンタルもあります。初心者でも車イスの操作からラケットの持ち方など、やさしくコーチをしていただけるそうなので気軽に参加してほしいと代表の山崎さんはおっしゃっていました。

車イスでボールを追いかけるととても大変なスポーツに見えますが、やっている方達は実に楽しそうで見ているこちらが気持ちが悪くなるそんなステキなACTのメンバーでした。



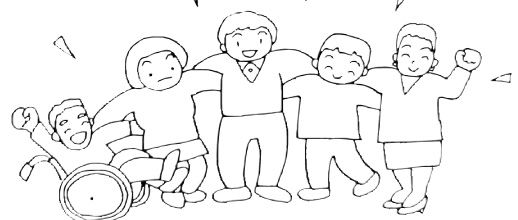
車椅子テニスサークル「ACT」のメンバー

陳情書「障害者雇用と社会参加について」の報告

当法人は、障害者の雇用を確保すべく平成20年10月3日旭川市議会に陳情書を提出していましたが、その後、同年12月12日の市議会本会議において本件が採択されました。

このことを受け、陳情内容の実現に向けた具体的な内容の検討にはいりました。そのはじめとして、1月の理事会において障害のある方の雇用促進と就労を目的とした「雇用プロジェクトチーム」を立ち上げました。当面は、公共施設・

公園管理等に対する就労に重点を置きますが今後は、行政やハローワーク・企業と連携を取りながら一般企業の分野にも広げ雇用促進を図っていく予定です。



ちょっと井戸端

昨年の12月7日(日)に開催しました「旭川市障害者週間記念事業」では、実行委員のみなさまをはじめボランティアの方々の絶大なるご理解とご協力を得まして、近年になく多くのお客様を迎え、盛会に終わりました。事前のPR、啓蒙活動として多くの皆様にご協力をいただきまして大変ありがとうございました。私は実行委員長という大役を任されましたが、気持だけ多くのお客様がご来場くださいますよう、また、当日の天気が良い日でありますようにと祈っておりました。(高津 修)



フライングディスクと風船バレー教室 (旭川市障害者スポーツ教室)

1月25日(日) フライングディスク教室

参加者 = 13名

2月15日(日) 風船バレー教室

参加者 = 20名

旭川障害者スポーツ協会の阿部龍雄先生の指導で教室が行われました。フライングディスクは、5mのアキュラシーゴールとストラックアウトを使っての練習。風船バレーは6名1チームでミニゲームを行いました。午後の教室はみなさん楽しい時間を過ごしていました。



フライングディスク



風船バレー



障連協 新年交礼会

障連協新年交礼会が、1月31日(土)午後5時から「旭川ターミナルホテル」で行われました。当日は旭川市長をはじめ、来賓、障連協団体関係者合わせて88名が出席しました。

お詫びと訂正

13号の「旭川市障害者スポーツ記録大会」結果報告に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

ボッチャ準優勝 (誤)大崎 和男 (正)大坪 光枝 福祉旭川共有会 A チーム

編集 後記

消費税が2011年をメドに引き上げとテレビのニュースで流れた。福祉を充実するためと聞いて複雑な気持ちになった。障害者自立支援法で1割負担が導入された時も同じ理由だった。負担と努力だけ求められても苦しいなあーと思った。通勤のガソリン代と昼食代で月3万円近く出費となっている。

これ以上出費が増えると通勤回数を減らすか昼食をカップ麺に変えるしかない。今年は障害者自立支援法の見直しが行われる。この貧しい現実を訴えていきたい。(M.T)

障連協のホームページがいよいよアップされます。「にゅーす」のバックナンバーもPDFで全号閲覧出来るようになっています。次号詳細。(Y.K)